

香道の美学

その成立と王権・連歌

濱崎加奈子 著

(専修大学准教授)

A5判・320頁／定価:本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1915-5

2017年10月刊行予定

香道研究にとって最も重要にもかかわらずあいまいにされてきた、香道成立にいたる過程を、「王権」と「連歌」の切り口から解き明かし、その美学をあぶりだす。

【予定目次】

I 香と王権

第1章 「太子」の誕生

名香「太子」
香木伝来神話の変転
香る仏像

第2章 蘭奢待と王権

足利三代截香
織田信長截香

II 香と連歌

第1章 香と連歌

『五月雨日記』
『名香合』
連歌会と香

第2章 香の起源神話と規矩の成立

『香之記』概要
香伝来神話
規矩の成立

第3章 名香と名香録

名物と名香
名香リスト
香分類法

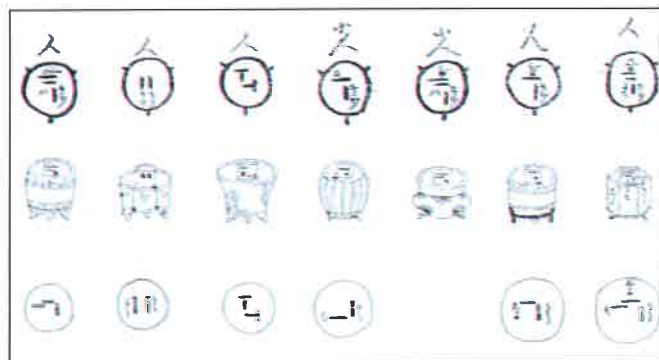


著者プロフィール
(日本文化研究所HPより)

濱崎 加奈子

(はまさき・かなこ)

神戸市出身。京都大学文学(美学美術史学)卒業。東京大学大学院(表象文化論)博士課程修了。学術博士。公益財団法人有斐斎弘道館の代表理事であり、伝統文化プロデュース連を主宰。専修大学文学部准教授、京都観光おもてなし大使など、多方面で活動。



香の序破急

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel075-533-6860 fax075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行:思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	香道の美学	本体5,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1915-5	
お名前				tel	本書HPのQRコード
ご住所	〒			e-mail	
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

中世後期の香文化

本間洋子著

香道の黎明

【第10回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞受賞】

本書では、香(こう)を炷(た)き鑑賞する催しである香会と香木・薫物の贈答を香文化として捉え、香道の発生期の一次史料を基に、「香道の祖」とされる三條西実隆や「香道志野流の祖」志野宗信と香との関係の再検討、「香会」の具体的内容についての考察、天皇への香木献上や天皇からの薫物・匂い袋の下賜を数量的かつ具体的に考察する三視点から、中世後期の香文化を解明する。香道について初めての実証的な歴史的研究。

【内容】

- 第一章 「香道の祖」三條西実隆についての再検討
第二章 「香道志野流の祖」志野宗信についての再検討
第三章 応仁の乱後の禁中香会—『お湯殿の上の日記』にみられる香会記事
第四章 禁中香会にみられる組香の形態
第五章 源氏香の誕生
第六章 天皇に対する香木の献上—『お湯殿の上の日記』から
第七章 蘭奢待の献上と下賜
第八章 天皇からの薫物・匂い袋下賜—『お湯殿の上の日記』から
第九章 中世後期の香道具・灰

▶A5判・426頁／本体8,200円(税別)

ISBN978-4-7842-1733-5

中世蹴鞠史の研究 鞠会を中心に

室垣弘明著

室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史を体系的に論じた一書。とくに応仁・文明の大乱後の15世紀後半における蹴鞠会について、新興武家層を参会者として加えた場より遊興性を加味しながら変容し、「故実」に代わって「新儀」が定着すること、それが近世の家元制度の萌芽と認められることなどを明らかにした。

▶A5判・300頁／本体5,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1390-0

※源氏物語 遊興の世界

逸翁美術館・池田文庫編

描かれた『源氏物語』を中心に、雅やかな世界を現代に蘇らせる。特に物語に描かれた「奏楽」「舞楽」「碁」など「遊興」に注目し、屏風や画帖などに鮮やかに再現された「遊興」の世界をたどる。2012年逸翁美術館同名展展示図録。

▶A4判・98頁／本体1,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1655-0

公家と武家Ⅲ 王権と儀礼の比較文明的考察

笠谷和比古編

国際日本文化研究センターで行われた、公家(貴族)と武家に焦点を合わせた共同研究のシリーズ第3弾。王権と儀礼に注目する17篇。

【内容】後七日御修法から見た国家と宗教／撰関期の天皇の葬送の実態／日本婚姻史の一視角—撰関家の特異性を考える—／室町の十字架—足利義嗣と一休宗純— 他

▶A5判・458頁／本体7,800円(税別)

ISBN4-7842-1322-8

東寺宝物の成立過程の研究

新見康子著

南北朝時代の寺誌である『東宝記』や東寺百合文書にみられる宝物目録などの豊富な史料をもとに、東寺に残る文化財の伝来過程を具体的に体系化した一書。今後の文化財の活用や保存を前提に、本来の保管形態を復元し、伝来を確定して位置付けをしない。

▶A5判・638頁／本体12,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1368-9

禁裏本歌書の蔵書史的研究

酒井茂幸著

禁裏本の総体を蔵書群として捉え、同時代の公家日記や古歌書目録類を援用しつつその伝来の歴史を跡付ける。また、禁裏における歌学や古典文学の注釈・講釈に注目し、古典学の変遷を叙述する。中世後期以降、歴代天皇がどのような歌書を求め、書写し、収蔵していったかを明らかにする。

▶A5判・344頁／本体5,600円(税別)

ISBN978-4-7842-1483-9

花道の思想

井上治著

花道の思想を紐解くべく、第一部では歴史の流れを概括しながら「出生」「花炬」「修行」という観点で花道思想の構造を整理。第二部では、江戸末期に揺れ動いた宇宙像が花道に及ぼした影響を見たのち、近代の花道家が花道文化の伝統にどう向き合ったかを「風流」「芸術」の概念から考察する。

▶A4判・260頁／本体1,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1839-4

※天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史

三島暁子著

南北朝・室町時代を通じて天皇・将軍が学び権威のシンボルとなった「笙」。本書は、天皇家・将軍家の笙の御師範として重要な役割を果たした地下楽人豊原氏の南北朝期から約150年にわたる活動に着目し、公・武・楽家という3者の関わりの中から、権威に密接にかかわった音の文化を論じる。【第30回田邊尚雄賞受賞】

▶A5判・360頁／本体6,600円(税別)

ISBN978-4-7842-1609-3

正倉院の香薬 材質調査から保存へ

米田該典著

平成6年(1994)から開始した第二次正倉院薬物調査に参加し、宝庫に伝存する香薬の材質調査の成果を中心に、長年考究してきた香薬についても加味して、著者により全編書き改めたもので、先駆的な研究成果の集大成である。理系・文系を問わず、有機物の「文化材」保存とは何かを問う。

▶A5判・440頁／本体10,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1821-9

※後鳥羽院政の展開と儀礼

谷昇著

後鳥羽天皇(上皇)が課せられた政治課題とそれに対する対応＝政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証することにより、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図したものである。

▶A5判・328頁／本体6,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1536-2

日本中世の王権と権威 [オンデマンド版]

伊藤喜良著

更なる研究の活発化が予想される中世天皇制研究の展開。中世前期から室町時代にかけての、天皇制と公家政権にまつわる社会思想、民衆意識、身分制等を祭祀・説話・淨穢観・殺生等の鋭い切り口で分析した意義深い論文集である。(初版1993年)

▶A5判・414頁／本体8,300円(税別)

ISBN978-4-7842-7012-5

日本文学とその周辺

大取一馬編

龍谷大学仏教文化研究叢書

時代や分野が異なった専門領域をもつ各研究員により、研究テーマの和歌文学にとどまらず、多岐にわたる内容の論文を収録。

【内容】『源氏物語』玉鬘十帖における紫の上の位置づけ—錯綜するまなざしに着目して—／『俊頼随脳』の異名／『嘉応二年十月九日住吉社歌合』伝本と本文考 他

▶A5判・626頁／本体8,400円(税別)

ISBN978-4-7842-1771-7

講座 日本茶の湯全史 [全3巻]

茶の湯文化学会編

日本文化史の中に位置づけられた茶の湯の展開を、茶の湯文化学会が総力をあげて俯瞰する。時代を輪切りしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論からなり、各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示。茶の湯を通覧するまったく新しい概説書。第1巻中世、第2巻近世、第3巻近代。

▶A4判・平均330頁／(各)本体2,500円(税別)

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。